



(4,000)

実 用 新 案 登 録 願

昭和54年 2 月 9 日

特許庁長官 熊 谷 善 二 殿

1. 考案の名称

センリョウヨウ
洗 浄 用 具

2. 考 案 者

住 所

氏 名

実用新案登録出願人と同じ

3. 実用新案登録出願人

住 所

氏 名

兵庫県西宮市甲子園砂田町4番21号

宗

田

務

4. 代 理 人

住 所

氏 名

大阪市西区北堀江1丁目7番3号

〒550 大阪市西区西長堀南通1丁目16番地

大花興産ビル2階

(2858) 弁理士 鈴

木

武

夫

5. 添附書類の目録

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| ✓ (1) (明 細 書 | 1 通) |
| ✓ (2) (図 面 | 1 通) |
| ✓ (3) (委任状その他代理権を証する書面 | 1 通) |
| (4) (出願審査請求書 | 1 通) |
| (5) (願 書 副 本 | 1 通) |
| (6) | |

54 016561

115-657

明 細 書

1. 考案の名称

洗 浄 用 具

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 中心部に配置した洗剤と、洗剤を包むフィルム層と、洗剤およびフィルム層を取り囲む比較的厚手の外皮層とを備え、前記フィルム層が小孔および／または間隙を有することによつて、洗剤を徐々に溶出させることを特徴とする洗浄用具。

(2) 前記外皮層にさらにプラスチックネットを被せることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項に記載の洗浄用具。

3. 考案の詳細な説明

この考案は、洗剤を内蔵している洗浄用具に関する。

プラスチックスポンジからなる洗浄用具は多種存在しており、食器、浴槽または便器などを洗浄するために用いられている。また、洗剤をスポンジにあらかじめ内蔵した洗浄用具も既に

1 提案され、この洗浄用具は使い勝手においてス
2 スポンジ単品のものよりすぐれている。しかしな
3 がら、この洗浄用具は使用の際に水中に浸漬す
4 ると、スポンジ内に侵入した水が洗剤を溶かし
5 すきることが多く、この結果として洗剤が早期
6 になくなってしまふという欠点があつた。

7 この考案の目的は、洗剤を包むフィルム層を
8 破けることによつて、洗剤を徐々に溶出させて
9 該洗剤を長持ちさせる洗浄用具を提供すること
10 である。また、この考案の他の目的は、プラス
11 チックネットを被せることによつて洗浄効率が
12 よりすぐれた洗浄用具を提供することである。

13 次にこの考案の実施例を図面に基いて説明す
14 る。

15 第1図はこの考案に係る洗浄用具1を示し、
16 該洗浄用具は一般に洗剤2とフィルム層3と外
17 皮層4とからなる。洗剤2は図面では洗浄用具
18 1の中心に位置しているけれども、用途に応じ
19 てその位置を適宜に変更してもよい。洗剤2は
20 石けんを含む界面活性剤であり、用途に応じた

品質のものを使用する。また、洗剤 2 の形状は固形、粉状または粒状のいずれでもよく、適当な溶出量を得るために軟石けんのような練り状のものも好ましい。

フィルム層 3 は洗剤 2 を全体的に包んでいる。フィルム層 3 はポリエチレン、ポリプロピレンまたはポリ塩化ビニルのようなプラスチックフィルムからなる。フィルム層 3 は、洗剤 2 を包み込み可能な大きさの板状フィルムを用いてもよく、または洗剤 2 を収納した袋状フィルムを用いてもよい。板状フィルムの場合には、単に洗剤 2 を包んでいるだけであるから適宜の間隙を有し、その間隙を遡つて水が浸入することになる。また、袋状フィルムの場合には、フィルム壁に適宜数の小孔 5 (第 4 図参照) を設けているから、該小孔を遡つて水が浸入することになる。このような小孔は板状フィルムにも設けて、洗剤 2 の溶出量を調整することも可能である。また、袋状フィルムに小孔 5 を設ける際には、該フィルムの全面に小孔 5 (たとえば 10 個) を設

1 けてもよいが、主として片面だけを使用する洗
2 浄用具ではその片面に対応した側にだけ小孔 5
3 を設けてもよい。前記のように、小孔 5 の位置
4 および寸法は用途に応じて調整することになる。

5 比較的厚手の外皮層 4 は、洗剤 2 およびフイ
6 ルム層 3 を全体的に取り囲んでいる。外皮層 4
7 は、ウレタンフォームのようなプラスチックま
8 たはゴム製のスポンジ、フェルト状の不織布、
9 またはタオル地のような織布でもよい。外皮層
10 4 は板状または筒状のものを使用し、フィルム
11 層 3 で包んだ洗剤 2 を収納した後に、板状なら
12 は折り畳んで縁部 6 を接着剤で固着するかまた
13 は縫着する。一般に外皮層 4 としては、厚さ 1
14 cm 前後のスポンジを使用することが普通である。

15 第 2 図は、第 1 図に示す洗浄用具 1 をさらに
16 プラスチックネット 7 で全体的に包んだ状態を
17 示す。プラスチックネット 7 は、押出し成形に
18 よつて筒状に形成したものを裁断するかまたは
19 そのままの状態で行う。プラスチックネット
20 7 は外皮層 4 に被せ、該外皮層の縁部の固着ま

1 たは縫着時に同時に固着すると好ましい。この
2 種のプラスチックネット7はその交差点におい
3 て肉厚になつているから、この洗浄用具で食器
4 などの被洗浄物を摩擦した際に付着物を効果的
5 に除去することができる。

6 第3図はこの考案の変形例を示し、洗浄用具
7 は洗剤8、フィルム層9および外皮層10から
8 なる。外皮層10は直方体形状のスポンジ体で
9 あり、その上面に硬質層11を全体に設置して
10 いる。硬質層11は硬質フィラメントを絡合し
11 た不織布状の材料からなり、接着剤によつて外
12 皮層10上に固着する。硬質層11は汚染のひ
13 どい被洗浄物を洗う際に用いる。

14 この考案の洗浄用具は、他の器具に取付けて
15 使用してもよい。たとえば、この洗浄用具にひ
16 もを取付ければ、保存する際に便利であつて紛
17 失することを防止できる。また、棒状の把手を
18 有する器具の一端に取付けると、直接手を触れ
19 ると不衛生な便器などを洗浄するのに便利であ
20 る。さらに、ゴムホースを有する器具の一端に

1 取付けると、別個に水を入れたバケツを使用す
2 ることなしに洗浄できるから洗浄作業を容易に
3 行なうことができる。

4 この考案に係る洗浄用具は、食器、洗面所、
5 浴槽または便器などを洗浄する際に、石けんと
6 スポンジというように2種の用具を用いること
7 なしにそれのみで洗浄できる。それ故に、容易
8 に洗浄作業が行なえるとともに、溶出しやすい洗
9 剤をフィルム層で包んでいるから該洗剤が早期
10 になくなることがない。このように洗剤を徐々
11 に溶出させることによつて該洗剤の使用可能期
12 間が長くなり、さらに不必要に多量の洗剤が溶
13 出しないから、この洗浄用具で洗うと後の水洗
14 いなどが容易となる利点がある。

15 4. 図面の簡単な説明

16 第1図はこの考案に係る洗浄用具の横断面図、
17 第2図はプラスチックネットを被せた洗浄用具
18 を示す斜視図、第3図はこの考案の変形例を示
19 す横断面図、第4図は第1図のⅣ部分の拡大断
20 面図である。

1 1 ... 洗淨用具、 2 ... 洗剤、 3 ... フィルム層、
2 4 ... 外皮層、 5 ... 小孔、 7 ... プラスチックネッ
3 ト。

4

5

6

出願人 宗 田 務

7

代理人 鈴木 武夫

8

9

10

11

12

13

14

15

16

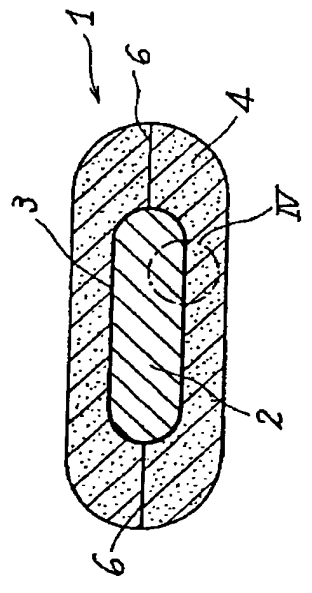
17

18

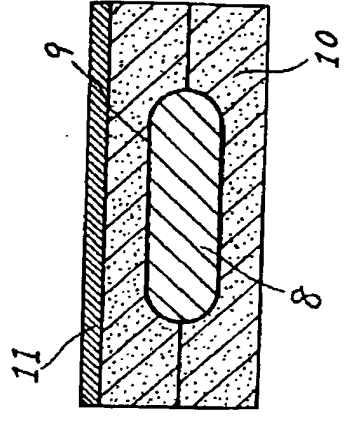
19

20

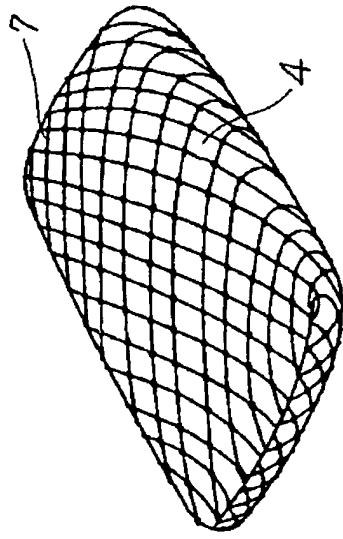
第 1 図



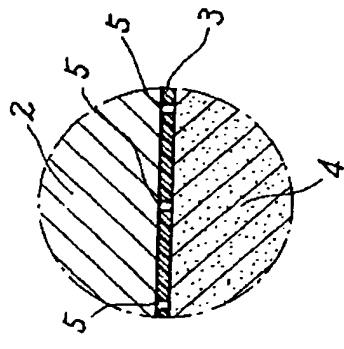
第 3 図



第 2 図



第 4 図



115657

出願人 京田 稀
代理人 鈴木 武夫